



## 機構改革

- ①高齢者対策課の設置は急務である。  
[西川議員・平成19年12月定例会での質問]
- ②収納率UPへつながる税収担当課の徴収システムの早期構築を。  
[西川議員・平成21年3月定例会での質問]

- ①専門職を置かなければならないので行財政改革を進めている中、今の段階では難しい。
- ②組織の見直しを今後検討していく。行財政再構築プランで組織の見直しが進行中。



▲収納特別対策室

# 先進地から学ぶ

委員会  
視察研修



▲総務文教委員会視察 春日市役所にて



▲建設委員会視察 愛知県大府市にて

## 認知症など地域住民が支える新たな活動

厚生常任委員会

**【目的】**  
認知症ケアコミュニティ推進事業の取組み

**【日程】** 11月6日

**【視察先】**  
大牟田市役所

大牟田市では地域全体で支える仕組みをつくり、認知症になっても住みながらの家や地域で、安心して暮らし続けることができてきたまちづくりを目指し、「認知症ケアコミュニティ推進事業」が行なわれている。行政は認知症ケア研究会の発想や意見を推進事業に反映させることで、認知症の人の支援の仕組みを広げていった。事業の内容は①コーディネート

**【目的】**  
・コミュニティスクール  
・アンビシャス広場

**【日程】** 10月21日

**【視察先】**  
春日市教育委員会

春日市は人口移動が多く地域また家庭の連携が乏しいという背景があり、開かれた学校づくりの大きな柱として取組みが行なわれている。

コミュニティスクールは、学校・家庭・地域・三者がそれぞれの分野を補完し合い、子どもを育てる環境づくりがひいては地域づくりにつながっている。

学校は学ぶ場所、家庭は働く力を見せる場所、

## 地域に開かれた学校

総務文教常任委員会

れ相談健診③予防教室④小中学校絵本教室⑤ほっと安心徘徊ネットワークの柱で構成されている。本町には一ヶ所もない小規模多機能型居宅介護施設が23ヶ所整備され、介護予防拠点として地域交流施設が37ヶ所あり、全市民間の施設。また徘徊模擬訓練が市内全域で取り込まれている。この取り組みに志免町も近づくよう視察を活かしていきたい。

地域は遊ぶ力を育てる場所が想定され、協働による効果を期待。それぞれの校区に合った計画づくりがなされていた。

学校運営を地域がやるという捉え方にならないよう、協働責任方式でなく、運営協議会をつくり委員構成、報酬などの規則が定められ、予算は市費が投入されている。

20年度ですべての校区（12校）に導入されるとのこと、志免町でも前向きに検討すべき課題である。

「アンビシャス広場」  
子どもの居場所づくりとして一番身近な公民館や学校で開設。

県の助成を受けて取り組みが始まり、毎週2日以上の開所で19団体が継続されている。

地域力のすこさを実感させられた。



▲厚生委員会視察 大牟田市役所にて

## 計画的な内水対策

建設常任委員会

**【目的】**  
・下水道事業の公営企業会計への移行  
・都市型豪雨の内水対策

**【日程】** 11月17日、18日

**【視察先】**  
愛知県知多市・大府市

知多市では、平成2年時点で下水道普及率が63.4%になった。この状況を

受け永久的な管理運営、経営の安定化を図るため、市長から企業会計移行への方針が示された。

いくつかの条例、規則の制定、改正を経て国へ移行届を提出。当町も普及率が99%を越え、早期の企業会計への移行が望まれる。

大府市では、平成12年9月の東海豪雨災害を機

に、総合排水計画を作成し実施。

まず、河川の整備状況を確認し、浸水実績図を作成、そこから湛水量を計算し、短期・中期・長期の治水対策メニューを立案。調整池の整備、浸透ますの設置、家庭貯留施設の整備など、人的被害を最小限に止める事を目的に、年次計画を立て実施されている。

当町でも早期に計画を立て、できることから実践していくべきである。